

100 年前の 100 年後

—明治～昭和初期の未来予測—

平成12年11月27日～平成13年1月26日

ついに 21 世紀

これからの 100 年、世界はどうなっていくのだろう。

100 年前の人々もまた、今の私たちと同じように 100 年後の世界に思いを馳せました。

彼らの未来は実現したのでしょうか？

今回の展示では、1901(明治 34)年の報知新聞の企画記事「二十世紀の豫言」をはじめとして百貨店や大学の未来予想図、未来小説など幅広くご紹介いたします。

またあわせて、今現在予測されている未来を描いた資料も展示します。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

100 年前の 20 世紀

1. 「21 世紀の大予言 100 年後の世界」

『This is 読売』 読売新聞社〔編〕 読売新聞社 1998・1号 <Z23-668>

予言されている時期 20 世紀

『This is 読売』誌では 1998 年の 1 号から 12 号まで「21 世紀大予言」という特集を組み、1 号では報知新聞の「20 世紀の豫言」をとりあげた。報知新聞の該当する面のコピーが付録としてついている。

2. 「二十世紀の豫言」

『報知新聞』 報知新聞社 明治34年(1901)1月2・3日号 <YB-18>

予言されている時期 20世紀

1901年(明治34)、20世紀最初の正月の報知新聞に掲載された企画記事。「豫言」は23項目に及ぶ。

3. 五十年後の太平洋 大阪毎日新聞懸賞論文

大阪毎日新聞社編 大阪 大阪毎日新聞社 昭和2 699, 16p 23cm <561-52>

予言されている時期 1976年

大正15年に大阪毎日新聞、東京日々新聞が公募し、同年8月から3ヶ月間両紙上に掲載した論文を単行本にまとめたもの。一等入選は三好武二氏、二等高山謹一氏、三等佐々井晃次郎氏。一等の論文では太平洋をめぐる各国の情勢、太平洋での地殻変動と地震、新しい科学技術について予言されており、特に科学技術分野では無線電送機(無線で電力を送る機械)、人造人間、太平洋を30時間で横断する百余人乗り積載量五千トンの飛行機などについて言及されている。最終的に日本の発明した『殺人光線』とドイツの発明した『人造人間』によって戦争の意味が無くなり太平洋に平和が訪れるという予言がされている。

4. 「現代名士講述未来記」

『成功』 成功雑誌社〔編〕 成功雑誌社 明治41年(1908)十四卷5号秋季臨時増刊 <雑52-13>

予言されている時期 20世紀

経済、日本画、新聞など、28分野についての未来を各分野に精通する著名人が語ったもの。「電気学会の未来」では、夫が銀行、妻が鉄道局に勤めるなど共働きである場合、煮焚きにヒチリンでなく電気を利用すると、手軽で便利であると書かれている。

5. 「百年後の日本」

『日本及日本人』 政教社〔編〕 政教社 大正9年(1920)4月春季増刊号 <YA-15>

予言されている時期 2020年

編集部が著名人250名に100年後の日本について回答を求めたアンケート。答えは、真面目なものからふざけたものまで、さまざま。

6. 早稲田生活

南北社編 東京 南北社 大正2 454p 19cm <350-69>

予言されている時期 1963年

早稲田の学風、生活などを紹介する資料。その中に「50年後の早稲田」という章がある。早稲田大学の男女併せて3万人の学生は寄宿舎で規則正しく勉学芸術にいそしむ生活を送っている。夕

食は社交界の晩餐で、ここで男女がよく知り合うことにより恋愛、結婚でヘマをやらずにすむそうである。

7. 三田生活

東奥逸人著 東京 研文社 大正4 388p 19cm <360-74>

予言されている時期 大正 20 年(1931 年)

慶應義塾大学を紹介する資料だがその中で「慶應義塾未来記」と題して慶應義塾大学の未来を予測している。予測によれば、慶應義塾大学は大正 20 年に「単科大学制度」を採用し農科大学、商科大学等 8 つの大学に分かれ、それらを総称して「慶應義塾」と呼び、また大学の大部分を二子玉川地区に移転する。なお当時の慶應義塾大学部は文学・理財・法律の三科のみであった。

8. 三十年後ノ岩国市 今様浦島夢の未来記

夢見る里人戯作 岩国 日新堂書籍部 昭和16 327p 19cm <特234-791>

予言されている時期 昭和 35 年(1960 年)

昭和 5 年 1 月 1 日より約半年間『岩国毎日新聞』に連載された作品。30 年間アメリカに滞在していた主人公が昭和 35 年に岩国市に帰って来て、すっかり変化した市内を見て回るというはなし。

岩国市は日本有数の商業地帯となり、4 本の電車の路線が走り、空港ができ、9 科をもつ私立大学が設立されている。このころの空港は地上ではなく大きなビルの上に作られている。

9. 百貨店一夕話

浜田四郎著 東京 日本電報通信社 1948・12 248, 9, 5p 19cm

<DH468-E147>

予言されている時期 明治 55 年(1922 年)

明治 38 年に三越百貨店へ入社した著者の見た三越百貨店の歴史。その中に三越の PR 雑誌『時好』に明治 40 年 11 月に掲載された「明治五十五年三越未来記」が転載されている。予言されている時期は書かれた時から 15 年後の明治五十五年(1922 年)、西洋風建築で便利になった三越を見学するという内容であるが、汽車は東京大阪間を三時間で走る、空中飛降機が三越で販売されているなどと予測。なお明治 44 年の三越はまだ三越呉服店で入り口では下駄を預かっていた。

10. 「100 年後の科学画報」

『科学画報』 誠文堂新光社〔編〕 誠文堂新光社 昭和2年(1927)1月号

<Z405-Ka8>

予言されている時期 2027 年

「百年後の世界」という特集記事の中で百年後の人類、ラジオ、地下文明、建築、都市などが予測されている。この中で百年後の科学画報も予測されているが、100 年後にはすでに印刷物というものはなくなって蓄音蓄影装置によって送受信されており、編集会議へは世界各地から離身電波

によって参加する。実際の「科学画報」は昭和36年に「学生の科学」と改題し昭和36年に休刊した。

11. 百年後の日本

松谷与二郎著 東京 光学堂 昭和5 512p 20cm <603-27>

予言されている時期 2029年

2029年に武甲山で発見された死体は大正12年(1923年)の関東大震災の被災者だったが、特殊な自然状態に保たれていたことによって仮死状態のまま保存されており、未来の科学技術によって蘇生するというストーリー。1923年から106年後の未来へ来てしまった主人公の目を通して未来の世界が語られる。科学、政治、経済、都市、宗教、人口、食料など多岐にわたる分野について予測されている。

12. 「番茶会談」

露伴全集 第1-12巻 幸田露伴著 東京 岩波書店 昭和4-5 全12冊 23cm

<593-28>

予言されている時期 不明

明治44年作。実業界を目指す少年達が結成した勉強会の面々で町内の物知りな老人から実業に役立つような話を聞かせてもらうという筋。雑誌『実業少年』に連載された。実際的な事業や技術についての話が主だが電力の無線輸送、補盗装置(監視カメラ)、圧搾空気を利用した空気力車などの未来技術についても触れられている。

13. 模範町村

(利用はマイクロフィッシュ<YDM95559>)

横井時敬著 東京 読売新聞社 明40・10 172p 22cm <26-424>

予言されている時期 不明

著者は農学博士であり自分の町村問題についての研究に基づいて未来の理想的な村落を小説に描いている。

14. 世界未来記 社会進化

(利用はマイクロフィッシュ<YDM101130>)

アー・ロビダ著 蔭山広忠訳 東京 春陽堂 明20・6 440p 21cm <26-29>

予言されている時期 明治85年(1952年)

3人の少女が女学校の寄宿舎から巴里の家へ帰ってくるころから始まり、その中の一人の少女の経験を通して未来世界の政治や社会、恋愛、仕事などが紹介される。科学の新技術として駕雲船(地上240メートルを矢よりも速く飛行する)や、走空小舟(アエロネーフ 一人乗りの空中小艇)、観聞器(遠くの風景と音声を線で送り玻璃鏡に映して見る)などさまざまな機械が登場する。

15. 未来の都

(利用はマイクロフィッシュ<YDM95462>)

岡本半溪著 東京 金泉堂 明23・1 112p 18cm <特11-5>

予言されている時期 明治60年(1927年)

東京見物に出てきた老人二人が東京を散策しながらこんなところが変わってしまったと話し合う。東京中家が建て込んでいることや、そのために谷中の墓地が軽井沢にうつって野辺送りは電車で行くことなどに驚く。

16. 婦人の未来と男性復興

アンソニー・エム・ルドヴィチ著 桐生政次訳 東京 聖山閣 昭和2 136p 19cm
未来叢書第1編 <545-54>

予言されている時期 不明

LUDOVICI Anthony Mario の"The Future of Woman" (London : Kegan Paul & Co., 1936)の翻訳。婦人の活躍がますます増えるに従い、女性首位の世の中になり、女性は結婚をやめ人工子宮で子供をつくるようになる結果、男性の必要性はほとんどなくなり女性千人に対して男性五人を越えた男性は処分されるようになる。その結果文明は停滞するのでそれを避けるためにどのように努力し男性を復興するかがテーマらしい。

17. 文明の大破壊 社会主義新小説

(利用はマイクロフィッシュ<YDM300806>)

磯野徳三郎著 東京 博文館 明37・6 440p 23cm <KH215-195>

予言されている時期 1990年

ミネソタ州選出の政治家イグネシアス・ダンリー(ドネリー)によって1890年に書かれた『シーザー記念塔』の翻訳。100年後、資本家と労働者の抗争と共倒れにより文明世界そのものが滅亡してしまうという筋。

18. 三百年後の東京

(利用はマイクロフィッシュ<YDM93899>)

月露行客著 東京 大学館 明36・7 203p 20cm <96-272>

予言されている時期 23世紀はじめ

17と同じく『シーザー記念塔』を原作とするが、冒頭に、明治三十五年に冷凍睡眠器に入り三百年後に蘇生したという原作にはないくだりが付け加えられている。また原作の舞台はニューヨークで登場人物も西洋人だが、この『三百年後の東京』は舞台を日本にかえ登場人物も日本人である。あらすじは冷凍睡眠によって明治三十五年から23世紀に蘇生した男が、はじめは進んだ文明に感心するが、資本家が世の中を牛耳り労働者が差別されている現状を見て労働者運動に加わるという

もの。

19. 世界未来記

(利用はマイクロフィッシュ<YDM51086>)

蒲生俊著 東京 尚成堂 明18・2 104p 19cm <特70-240>

予言されている時期 不明

過去の現象から未来のことを考察することをめざし人種、言語、宗教、政治、軍事などについて言及している。

20. 四百年後

古荘国雄著 東京 光林堂書店 大正15 254p 19cm <551-158>

予言されている時期 2325年

世界の指導者である政治家が次々と暗殺され、その謎を解くべく放送局の局員が活躍する物語。金星や火星には宇宙人が文明を築いており地球とも交流がある。

21. 三十年後

星一著 東京 新報知社 大正7 239p 16cm <31-626>

予言されている時期 大正37年(1948年)

大正七年に無人島に渡って暮らしていた元政治家の老人が30年ぶりに東京へ帰ってきて変化した日本に驚くというストーリー。外出は飛行機や自動歩行機(靴や下駄に仕掛けがあるもの)を使うので自動車はほとんどなく、不老回春薬によって皆若くなり寿命は百四、五十歳までのびている。測頭機というものではかると脳などのどこに悪い点があるのかがすぐにわかり、投薬でほとんどの病気を治すことができ、「バカにつける薬」も発明されている。

作者星一は星製薬の社長で、作家星新一の父。

22. 未来科学の進化

桜井学堂著 東京 日本書院出版部 昭和4 392p 20cm <特202-446>

予言されている時期 いろいろ

国内外で書かれた未来小説、未来予測などを抜粋して紹介したもの。H.G.ウエルズやトルストイ、ベーコン、西村真琴などの作品が取り上げられている。また初めてロボットという語を作ったことで有名なチェコの作家チャペックの戯曲『R.U.R.-ロッサムのユニバーサルロボット』(1920)の抄訳も「人類に奉仕する十億人の機械奴隷」として含まれている。

23. 雪中梅

(利用はマイクロフィッシュ<YDM94284>)

末広重恭著 東京 博文堂 明19 135, 183p(上・下合本) 19cm <特13-505>

予言されている時期 明治 123 年(1990 年)

本編は弁士を主人公にした政治小説だが、不完全な当時の状況と比べるために「發緒」に未来の改善された社会を描いている。明治 123 年にある石碑が発見され、そこに載せられている人のことを調べていると書籍館(図書館)で「雪中梅」という本を見つけた…という「發緒」から、その弁士を主人公にした小説が始まる。未来の様子は、桃谷が大坂の中央になり、鉄道馬車が走り、夜は瓦斯電氣燈で昼より明るい等と描写されている。

24. 怪飛行艇月世界旅行

石松夢人著 東京 萬巻堂 大正4 148p (少年痛快文庫5巻) <児乙部15-S-2>

予言されている時期 大正〇年

伯父の発明を引き継ぎ、12 時間で月に到達する飛行艇を完成させた行雄が、知人の太郎と月へ旅立つ物語。月世界(リウナリアン)には水と空気があり、月人(リウネリアン)がいる。月人は「大負けに負けた所で、河馬と猿の合の子」のようであるらしい。月世界は太陽の光がささないため目は退化し、かわりに爪で八方を探る。

25. 月世界探検

(利用はマイクロフィッシュ<YDM93585>)

羽化仙史著 東京 大学館 明39・1 205p 19cm <特13-285>

予言されている時期 不明

美少女が月の世界を冒険するというストーリー。少女達はなんと羽衣のような薄い着物を着て地球から月へ飛んでいくのである。しかし男性は砲丸の中に入って行くしかないようだ。

26. 星世界旅行 千万無量 一名・世界蔵

(利用はマイクロフィッシュ<YDM22339>)

貫名駿一著 東京 貫名駿一 明15・6 143p 18cm <特49-872>

予言されている時期 不明

宇宙の腕力・智力・文明の3つの世界を旅する物語。智力世界では、「化学的ノ作用亦タ能ク動植物ヲ發生ス」とあり、人造の白象を造る話がかかれている。この白象の製造は失敗に終わり、元素に分解し瓶に戻ってしまうが、今後研究が進み、全智全能全聖全良の人間が造られれば、女性は子宮を閉鎖して子孫を殖やすのをやめるべきだという。また、人造人間社会に必要な「人造人間法」3条も作られている。この人造人間はロボットで有名なカレル・チャペックの「R・U・Rーロツサム万能ロボット会社」より40年も早い時期に書かれている。

27. 「鐵車王國」

春浪快著集 第2-4巻 押川春浪編 東京 大倉書店 大正5-7 3冊 18-19cm
<357-167>

予言されている時期 不明

明治43年作。日本は将来の戦争に備えなければならないと言う未来戦争小説。日本の「最高国事探偵」である主人公が各国の軍事情報を探って活躍する。未来の飛行船や戦車が登場する。それらは無限(イターナル)猛力と呼ばれる「強大無限なる元素力」によって稼働している。

28. 政海之破裂 夢幻現象

(利用はマイクロフィッシュ<YDM94251>)

井口元一郎著 大阪 浜本伊三郎 明21・11 74p 20cm <19-126>

予言されている時期 不明

日本初の月世界旅行記と言われている。作者がベルヌの「月世界旅行」を読んで空想を巡らせていると蚊龍がやってきて月世界人民の問題を解決してほしいと頼まれ月へ向かう。

29. 二十世紀物語

杉山平助著 東京 教材社 昭15 253p 19cm <798-208>

予言されている時期 21世紀

浦島太郎の玉手箱を使って、百年、二百年後の世界を生きることを夢見る夢之助と靄子。動物園の海豹に龍宮城に連れて行ってもらうことに成功するが、お金のない二人は21世紀の世界に置き去りにされてしまう。21世紀のこの世界は、何をするにも許認可が必要で、乗り物に乗ることから、朝飯、接物に至るまで申請しなければならないという。

30. 未来文明叢書

東京 日本書院出版部 昭和3 三冊 19cm 村上計二郎編 <583-2>

予言されている時期 不明

各分野の専門家の説を集めたもの。いずれも当時の状況や技術から推測した現実的な予言が多い。「次の科学世界」では、合成食品、人工生命、新兵器、交通など、「次の精神世界」では言語、教育、芸術、道徳など、「次の社会文明」では、労働、交通、女性、経済、政治などの未来が取り上げられている。

31. 此世は如何にして終るか 科学小説

カミイユ・フラマリオン著 高瀬毅訳 東京 改造社 大正12 355, 2p 18cm
<517-194>

予言されている時期 25世紀、1千万年後

フランスの科学者 Flammarion, Camille の"La fin du monde" (Paris, E. Flammarion, 1894)の翻訳。第

1 編は「25 世紀の推理」で彗星の衝突によって人類滅亡の危機が訪れる。第 2 編の「1 千万年後の世界」では、社会は変化し戦争はなくなり民族、思想、言語、度量衡が統一されている、電気動力機械が普及し、食物は科学的合成によって生産されている、人体も変化し頭は大きく体は小さくなる等々多くの予言がされている。

32. 二十一世紀の秘密 ニュートピアの巻

三石巖著 山本泉絵 広島 広島図書 昭和25 190p 19cm <児404.9-M555n>

予言されている時期 2049 年

1949 年に『子供の科学』に連載された。舞台は 100 年後の東京。主人公ナミーとその仲間が怪しい男を追って繰り広げる科学小説。小型自動車で登校し、教室は自動ドアで室内は空気調節機により湿度まで設定できる。家に設置されたドロボウよけやプラットホームのベルトウェイなどは原理が図解されている。

33. 「21 世紀人」

『少年クラブ』 講談社 昭和29(1954)年2月号

<Z32-387>

予言されている時期 21 世紀

34. 2001 年の日本

加藤秀俊, 真鍋博, 朝日新聞社編 東京 朝日新聞社 1969 193p 21cm

<GB581-1>

予言されている時期 2001 年

イラストは先日亡くなった画家真鍋博氏による。20 世紀が3分の2過ぎた 1966 年、残り3分の1の期間に予想されることを描いた絵本。予想は国土と生活の2部にわかれ、各分野についての専門家が予測している。

図書館の 2001 年のページでは、資料のマイクロ化、図書館網の形成が予測されている。

これからの未来

35. メカニックファンタジー 小松崎茂の世界

小松崎茂著 東京 集英社 1982・10 71p 28cm

<KC482-154>

予言されている時期 不明

プラモデルの箱絵でも知られるイラストレーター、小松崎茂氏の画集。未来の都市はソーラーシステムが発達し、クルマはリニア、飛行機は蒸気水晶イオンで飛行し、無公害化されるという。

36. 21 世紀アツと驚く大予言 2030 年までに暮らしはこう変わる

金子隆一, 望獲つきよ著 東京 二見書房 2000・4 266p 15cm

(二見wai wai文庫)

<M19-G172>

予言されている時期 2001 年～2030 年

21 世紀を個人レベルの視点でとらえた本。「それによって具体的にわれわれの日常生活や考え方にどんな変化が起こるか」ということに主眼をおいている。予測される未来は、現在あるものの延長であるため、ある程度予測は的中させられるという。パンダがペットになるかも、という予測もその一つ。中国科学院がパンダの胚細胞の培養に成功したため、近い将来クローン・パンダが誕生することはほぼ間違いないらしい。

37. 21 エモン 第 1 巻

藤子不二雄著 東京 小学館 1977・8 189p 18cm (てんとう虫コミックス)

<Y16-5588>

予言されている時期 2053 年

450 年つづくホテル、つづれ屋の 21 代目、21 エモンが主人公。ホテルのボーイはロボット。宇宙からもやってくる客に合わせて、食事や室内の気圧や重力を変えている。情報収集は電子頭脳センターからのデータを受信している。

38. 「2010 年代の国民生活ニーズとこれに関連する科学技術」

『NISTEP report』 62巻 科学技術庁科学技術政策研究所第4調査研究グループ
科学技術庁科学技術政策研究所

<Z14-1538>

予言されている時期 2001 年～2024 年

科学技術庁がほぼ 5 年に 1 度実施している調査。未来の国民生活について 8 分野、321 項目の質問を 4000 人の研究者や学識経験者に行っている。各項目について、実現予測年と重要度指数が併記されている。予測年の算定方法は「デルファイ法」で、出された回答の平均値を実現予測年としている。これによると、2020 年には、1000 メートルの超々高層マンションが建設されるかもしれない。

39. 百年前の二十世紀 明治・大正の未来予測

横田順彌著 東京 筑摩書房 1994・11 204p 19cm (ちくまプリマーブックス)

<KH734-E257>

予言されている時期 21 世紀

SF・冒険作家であり、明治時代にも詳しい横田順彌氏の著書。明治・大正時代の未来予測を紹介し、予測結果についても考察。最後に著者自身が予測する 21 世紀が記されている。それによると、頭よくなる薬、美男・美女になる薬ができるかもしれないというが、横田氏自身が天才と認められるという予測もあり、裏付けがあるどうかは不明。

40. 「21 世紀大予言 100 年後の世界 交通通信編」

『This is 読売』4月号 読売新聞社〔編〕 読売新聞社 <Z23-668>

予言されている時期 21 世紀

This is 読売誌では 1998 年の 1 号から 12 号まで「21 世紀大予言」という特集を組み、1 号では報知新聞の「20 世紀の預言」をとりあげ、2 号では科学者や SF 作家の未来予測を特集した。その後 3 号から 12 号までは毎号テーマを決めて読者から未来予測を募り掲載した。

41. 「近未来技術最前線」

『週刊東洋経済』 東洋経済新報社〔編〕 東洋経済新報社 2000.11.11 特大号

<Z3-38>

予言されている時期 2020 年

未来の技術として注目されていることの一つにナノテクノロジー(ナノテク)がある。1 ナノは 100 万分の 1 ミリ、1 マイクロの 100 分の 1。数ナノは原子や分子の大きさにあたる。ナノテクが実用化されると、副作用が出ず、効果が長く持続する抗ガン剤ができるという。通常細胞には入らず、ガン細胞の組織間だけに浸透する大きさのカプセルを組み立てることができるからだ。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)

ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■

明治以降の主な出来事

明治時代

- 1868 明治元年 明治維新
- 1869 明治2年 藩籍奉還
- 1870 明治3年 日本初の日刊新聞「横浜毎日新聞」
発刊
- 1871 明治4年 廃藩置県
- 1872 明治5年 新橋・横浜間鉄道開通/
横浜で日本初のガス灯点火
- 1873 明治6年 徴兵令の布告/地租改正条例
- 1876 明治9年 廃刀令布告/ベルの電話発明
- 1877 明治10年 西南戦争/東京・横浜間電話開通/
東京大学設立
- 1885 明治18年 内閣を設置。初代首相に伊藤博文
が就任
- 1889 明治22年 大日本帝国憲法発布/東海道本線
全通
- 1890 明治23年 第一回帝国議会召集/東京電灯、浅
草で電動エレベーターの運転開始
- 1893 明治26年 エジソン、活動写真を発明
- 1894 明治27年 日清戦争
- 1895 明治28年 日清講和条約調印/三国干渉
- 1898 明治31年 東京・大阪間長距離電話開通
- 1899 明治32年 義和団の乱
- 1902 明治35年 日英同盟成立/シベリア鉄道完成
- 1903 明治36年 ライト兄弟の飛行機完成
- 1904 明治37年 日露戦争勃発/三越、日本初の百貨
店に
- 1905 明治38年 日露講和条約調印
- 1907 明治39年 国産ガソリン車第一号
- 1910 明治43年 韓国併合に関する日韓条約調印
- 1911 明治44年 辛亥革命始まる

大正時代

- 1912 大正元年 大正天皇即位
- 1914 大正3年 第一次世界大戦に参戦
- 1915 大正4年 対華二十一箇条要求
- 1916 大正5年 アインシュタイン、
一般相対性理論を発表
- 1918 大正7年 シベリア出兵宣言/富山県で米騒
動
- 1920 大正9年 国際連盟加入
- 1921 大正10年 日英米仏4国条約調印
- 1922 大正11年 ワシントン条約調印

- 1923 大正12年 関東大震災
- 1925 大正14年 日ソ基本条約調印/普通選挙制
定/ラジオ放送開始

昭和～平成

- 1926 昭和元年 自動式電話設置
- 1927 昭和2年 東京地下鉄(上野・浅草間)開通
- 1931 昭和6年 満州事変/羽田東京国際空港が開
港
- 1932 昭和7年 満州国建国宣言
- 1933 昭和8年 国際連盟脱退
- 1936 昭和11年 2・26事件
- 1937 昭和12年 日中戦争勃発
- 1939 昭和14年 第二次世界大戦始まる
- 1940 昭和15年 日独伊三国同盟調印
- 1941 昭和16年 真珠湾を攻撃し、対米英宣戦布告
- 1945 昭和20年 東京大空襲/米軍沖縄上陸/
広島・長崎に原爆投下/終戦
- 1946 昭和21年 日本国憲法公布
- 1947 昭和22年 日本国憲法施行
- 1951 昭和26年 サンフランシスコ講和条約締結
- 1953 昭和28年 テレビ放送開始
- 1955 昭和30年 東芝、電気釜発売
- 1956 昭和31年 国際連合加盟
- 1957 昭和32年 ソ連人工衛星打ち上げ
- 1961 昭和36年 アメリカで初の産業用ロボット
の実用機発表
ソ連、世界初の有人宇宙飛行
- 1964 昭和39年 東海道新幹線開通
- 1969 昭和44年 アポロ11号月着陸
- 1972 昭和47年 沖縄が本土復帰/日中国交正常化
合意
- 1973 昭和48年 オイルショック
- 1978 昭和53年 新東京国際空港(成田空港)開港
- 1986 昭和61年 ソ連チェルノブイリ原発事故
- 1988 昭和63年 瀬戸大橋開通
- 1995 平成7年 阪神淡路大震災/地下鉄サリン事
件

